

白山 境川大畠谷右俣～開津谷下降

笹川

【日時】2008年9月13日(土)～15日(月)

【メンバー】L小暮、田邊、笹川

2年前、きりぎりす17号の表紙を見た途端、この沢に魅せられてしまった。どうしても自分の眼で大畠谷二俣のスラブを見たくなり、昨年10月連休に計画したが悪天で中止、今回2度目の挑戦となった。現地までは、中央道の松本ICを出て、安房トンネル経由で東海北陸自動車道の飛騨清見IC—五箇山ICという経路で車を飛ばし、道の駅に3時には到着できた。

9/13 6時起床の予定だったが、やみそうにない雨で誰も起きようしない。桂湖に到着する頃には完全に雨はやんだが出発は10時となってしまった。境川橋には多摩ナンバーの車があり先行者がいる様子。大畠谷橋から下を覗くと全く水がない。橋の手前にある踏み跡から大畠谷へ下りる。水量が出てくると釣り師の物らしいケルンがたくさん出てきた。

1時間強ほどゴーロと小滝を進むと35Mの滝が現れる。滝を登るには時間がかかりそうなので左岸から巻くことにする。何となく踏み跡になっているのはやはり百名谷のためか。滝の落ち口を越えたところで懸垂下降するが、滝音が気になる。トップの小暮さんが降りたところで偵察に行ってもらったが、10Mの直瀑で登れないと言うので、登り返してもらった。滝上までトラバースし20Mの懸垂でようやく落ち着いたが、この巻きに1時間半もかかってしまった。

その先は、穏やかな広河原になる。大谷出合までは何もなく14時前に到着。地形図を見ると、ここから二俣まではずっとゴルジュとなりそうなので、少し早いが幕場とする。



35M 滝は左岸から巻く



8M 滝はスタンスが細かい

9/14 今日は開津谷に泊まりたいので、早起きする。

シャワークライミングや空身で滝を越えて行くと、登れない2段CS8Mの滝が出てきた。

左岸を巻き1P斜め懸垂で降りたが、途中にリングボルトがあったので、2Pで懸垂した方が良いかもしれない。

すぐに1枚岩のある二俣となる。その先にお助け紐がないと厳しい滝が3回続く。時に滝がぬめっていてアクアステルスだと怖い。

美しいが直瀑で登れない2段の滝が出てきたので、ここは左のルンゼから巻く。その後、3Mの小滝を越えると二俣スラブが見えてくる。ブロックは残っていたものの雪渓はなかった。



V級のクライミング



クラックからスラブ壁へ

二俣には先行パーテ

ィの天場跡があり、この景観を前に焚き火とは羨ましい。9時過ぎに二俣に到着したがまだ先行パーティは右俣のスラブを登っている。天場からスラブまで行くのにそんなに大変なのかと不安になってしまう。(のちに寝坊していたことが判明。)別れ惜しいが、右俣へ進む。雪渓が残っていたら苦労しそうな高度感のあるゴルジュとなる。弱点を探しながら滝の左を登る。20Mの滝はロープを出して左のリッジを登るがV級はあり最初の一步が難しく、ハーケンを打ちA1で這い上がる。リングボルトはあるが、傾斜がありここだけは岩登りの的だった。全員のザックを荷揚げしてラストの田邊さんが登り終えた頃、先行パーティがスラブを抜けたが、落差150Mの落石は小石でも恐ろしかった。その先も直登できないツルツルの滝で、我々も先行パーティと同じクラックルートを登ることにした。取り付くとII～III級でロープは要らない位だったが、落ちたら大変なのでアンザイレンで登る。ロープの擦れによる落石がすごいので、フォローの二人は間をあげずに登る。1・2Pは直登、3Pは途中からトラバースしロープを解く。あとは灌木伝いに滝の落ち口の先まで行き、最後は15Mの懸垂。核心を抜けてほっとした。

大島谷の詰めは藪が濃く、開津谷の下降はザレているとあまり良い話は聞かないので、登山道まで詰めず途中の尾根から開津谷に出ることにする。ふと振り返るとやたらと楽そうなコルが見えたので一本入れた後、戻る。沢から10分もしないうちに鞍部に出た。懸垂で降りた後、



開津谷の下降、後ろは仙人壁



左俣で休んでいたら先行パーティが下ってきた。4人組で山登魂の方たちだった。「早いですねー」と言われたが、ズルしてコルを乗越しただけです。

二俣に着くと、山登魂パーティが天場を作成していた。我々も隣にツエルトを張ることにする。山登魂パーティは9月だというのにタープのみ。気がつくとも一人全裸になって体を洗い始めたので度肝を抜かれた。さすが、イメージ通り硬派な感じ。夜、焚き火を囲み歓談すると、皆さん楽しい方で少し硬派なイメージは取れたかな。

9/15 今日開津谷の下降だけなので、朝はゆっくり。山登魂の方たちは30分位先に降り始めた。

開津谷は残置スリングが豊富にあり、楽ができる。支流の魚留滝はとても取り付けそうにない豪快な滝だった。最後に懸垂下降すると堰堤が出てきて仕事道を辿ることができる。

開津橋には山登魂のザックが4つ並んでいた。田邊さんがマラソントレーニングを兼ね、走って車を取りに行ってくれた。30分位かかるかと思っていたら、15分位で戻ってきたのでビックリ。湖岸を走っていて「何事か!」と思った管理人さんが声をかけ、車に乗せてもらえたそうだ。またズルして山登魂の方を追い越してしまい、何だか申し訳ない。

五箇山温泉に入った後、世界遺産の菅沼合掌集落などの観光を楽しみ、また長い運転で帰京した。

なぜか、ザックが重く無駄に苦勞したが、憧憬の大畠谷は二人のおかげで予想よりあっさり行けてしまった。白山の岩はもろいと言われていたが、それほど気にならず楽しめた。スラブ眺めは癖になりそうだ。

【グレード】4級

【地図】中宮温泉、西赤尾

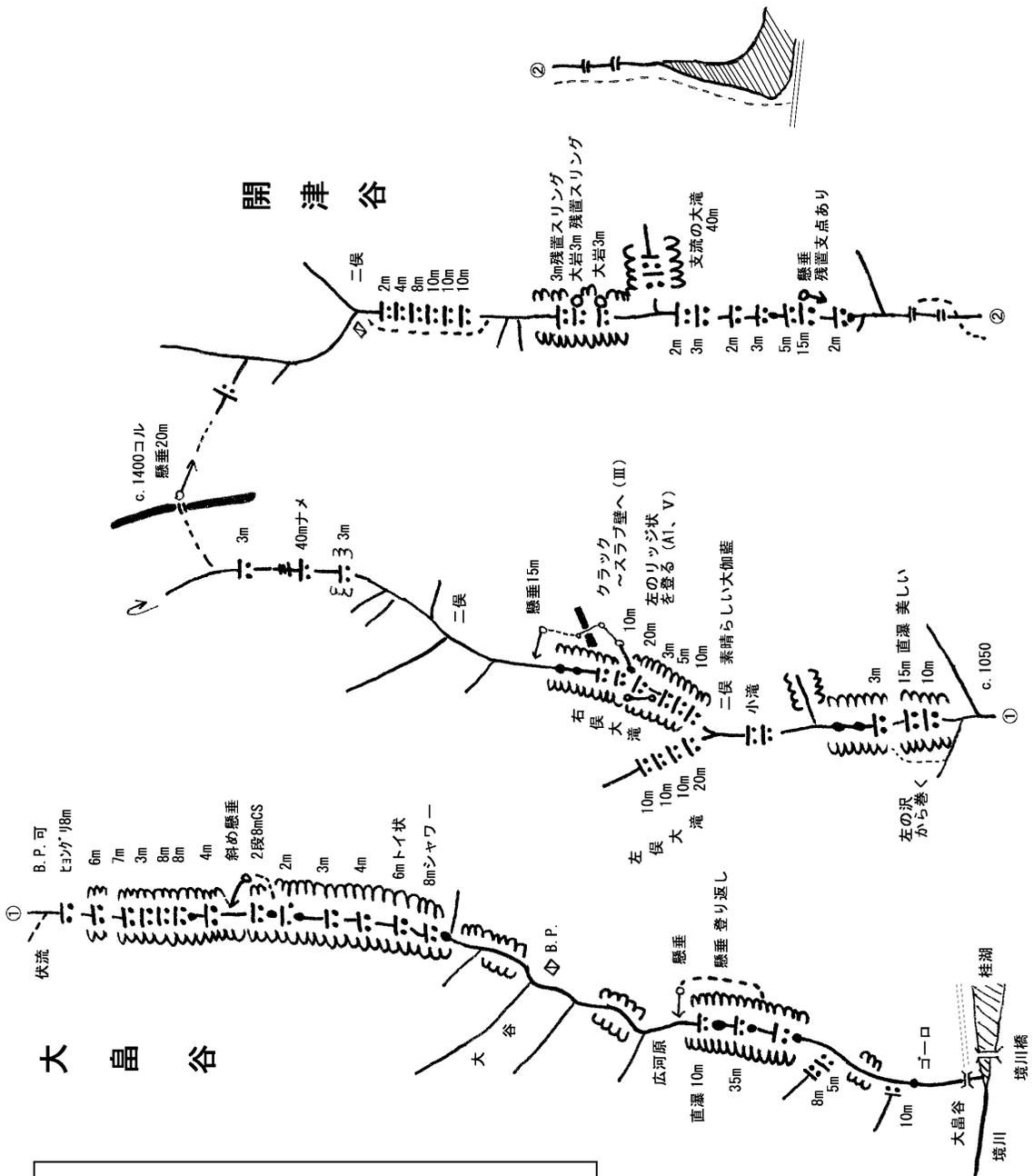
【行程】9/13 境川橋(10:00)～大谷出合(13:45)

9/14 C1(5:45)～二俣(9:15)～奥の二俣(13:20)～c. 1400コル(14:30)～開津谷左俣(15:10)～二俣(16:05)

9/15 C2(6:40)～魚留滝出合(7:25)～開津橋(9:00)



左俣大滝と右俣スラブ



白山／境川大島谷右俣～開津谷下降
 2008年9月13日～15日
 小暮、田邊、笹川（作図：小暮）